

5	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	16100006	MR画像による生体内標識幹細胞の無侵襲追跡技術と再生医療への応用	犬伏 俊郎(滋賀医科大学・MR医学総合研究センター・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>総合的には概ね順調に研究成果を上げつつあるが、次の点にも留意して研究を推進していただきたい。</p> <p>(1) 研究経過は概ね順調と評価できる。一方、標識剤としてのシリカの導入や近赤外マイクロイメージングの導入など当初の計画に見られなかったものが入ってきている。これはある意味では計画の不完全とも言えるが、未踏の研究を推進する上での臨機応変の処置として評価したい。</p> <p>(2) 論文数や内容から見て研究成果の学術的価値はやや高いと思われる。普及性、波及性に関しては、どういう視点から見るかにもよるが、ヒトへの応用という点から見れば現時点では未知数と云わざるを得ない。しかし、2年間の評価としてはやや高いと評価できる。</p> <p>(3) 今後の研究計画、方法は研究進展に応じた方向転換も導入されており、概ね妥当と言え、目標も概ね達成できると考えられる。</p>				
6	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	16100007	CT画像併用人工関節設計システム開発および複合材料製システムの製作	座古 勝(大阪大学・大学院工学研究科・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>総合的には概ね順調に研究成果を上げつつあるが、次の点にも留意して研究を推進していただきたい。</p> <p>(1) 研究経過については概ね良好だが、CFRPについてはその材料構成もはっきりせず、将来性が懸念される。</p> <p>(2) 研究成果に関しては、有限要素法の3次元解析に関する期待は大きく、やや高いと評価できる。論文発表、口頭発表も積極的に行われているが、査読付き論文数が少ない点が懸念される。普及性・波及性ではやや高いと評価できる。</p> <p>(3) 今後の計画は概ね妥当と言えるが、内容が抽象的すぎて、本研究終了後に最終的に人工関節をつくるまで進展するのか判りにくい部分がある。本研究の目標達成に関しては、概ね達成できそうであるが、過去の例からCFRPの実現は期待薄という意見もあり、その点はよく検討すべきである。</p> <p>(4) 人材養成の観点から、当初計画ではあった研究支援者を雇用できれば、なお良い。</p>				